



新年のごあいさつ



「作業の合間でホッと一息」
八王子福祉作業所

トリーク

ハームリダクションの考え方に学ぶ

武蔵野会は提携する法人として一般社団法人「みんなの力」や一般社団法人「生きにくさを抱えた障害者等の支援者ネットワーク」と関わりを持っています。「みんなの力」では成年後見と福祉サービス第三者評価を行い、武蔵野会職員は身上監護チームの一員や評価者として関わっています。「生きにくさネット」は主に罪を犯した障害者の裁判や出所後の支援者のネットワークづくりを目的とし相談を受けたり啓発研修を行うなどの当事者支援に関わっています。

福祉サービス第三者評価では、管理職が評価者の資格を取り、自分の時間で福祉施設の評価を行い、アルコールや薬物等の依存症支援施設であるマックやダルクに訪問する機会が少なくありません。また、罪を犯した障害者の中にも様々な依存症の人がいて、数年前からハームリダクションという依存症へのアプローチについて聞くことが多くなりました。

ハームリダクションとは、薬物使用をやめさせることを目標とせず、当事者の苦しみや生きづらさを共有し支援していくことを中心に据え、当事者を孤立させないという取り組みです。WHOでは2014年、薬物使用者に適切な治療や清潔な注射器を提供する体制整備を提案しました。ハームリダクションによって、以前の厳罰主義に比べ注射器の使いまわしによるHIV感染やAIDSによる死亡、過剰摂取による死亡を劇的に減少させ、薬物使用自体を減らせたことが報告され、2016年時点で90か国に導入されました。

第三者評価で訪問したマックでは、薬物使用した人を厳しく問い詰めるのではなく、本人の気持ちを十分に聞き、通所できない人が孤立しないよう訪問して、健康維持ができるように食事などの支援をしていることを知りました。埼玉県立精神医療センターの成瀬暢也先生の「男女、年齢、使っている物質に関係なく、かなり悲惨な思いをして生きてきた人が多く、虐待、ネグレクト、いじめ、性被害、父親のアルコール問題、病気や障害など、『よくここまで一人で頑張ってきたね』と声をかけたくなる人を次々と診ました。犯罪として懲らしめ反省させる、刑務所に入れるという事は、必死に生き延びてきたその人に追い打ちをかけて痛めつけることにしかならないと思います」という記述を読み、ハームリダクションの考え方は福祉従事者にとっても重要だと思いました。

謹賀新年

理事長 高橋 信夫



明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様に大変お世話になり、改めて申し上げます。

後援会会長・運営協議会委員

石谷 暢司



新春を寿ぎ、ご健勝を祈念申し上げます。昨年は長引くコ

ナ禍の中、また、諸物価高騰という社会生活にも経済の面でも多難な状況でしたが、会員と協力者の皆様には熱いお心をもって後援会の活動にご協力をいただいております。昨年暮れには、法人武蔵野会へ第1回目の寄付金をいたしました。これもひとえに会員と協力者の皆様の物心両面からの多大なご支援の賜物と存じます。ここに深く感謝を申し上げます。世の中が不安と先行き不透明な社会状況ですが、皆様の隣人を愛するという後援会の活動の理念こそが明かりを灯す光であると考えます。本年も1円玉、5円玉募金に使用済み切手、ベルマークの収集に、一層のご支援をお願い申し上げます。また、本年度の寄付金の目標額達成には皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

法人役員挨拶 (順不同)

【理事】



青木 秀雄
(明星大学名誉教授)



金森 仁
(弁護士)



今坂 康志
(医師)



上野 純宏
(前理事長)



山内 哲也
(リアン文京総合施設長)



山田 貴美
(法人本部長)

むさしの武蔵野

「星に語りて」

「星に語りて」 昨年の12月、障害者週間に合わせて御殿場市民交流センターで「きょうされん40周年記念映画・星に語りて」の上映会がありました。2011年3月11日に発生した東日本大震災における障害がある方達の状況と支援者の活動を描いた映画で、舞台は岩手県陸前高田市の避難所でした。災害弱者の彼らが多くの方達と生活できる環境ではなく、避難所から姿を消していくところから物語が始まります。

食料や薬、インフラ整備が危機的状況の中、彼らの生存確認を行うにあたり、個人情報保護法の解釈が壁となりました。行政や福祉従事者、ボランティアは、災害弱者の所在が分からず、助けに行きたくても行けないという葛藤を抱えながら避難所で被災者支援を続けることしか出来なかったのです。その姿を通じて、改めて災害時の備えについて考える機会となりました。

近年の災害の傾向として「災害の頻発化」「被害の激甚化、広域化」が挙げられます。国は令和元年の台風19号等を踏まえた

【評議員】



横田千代子
(全国婦人保護施設等連絡協議会会長・婦人保護施設いずみ寮施設長)



井上 明子
(弁護士)



久保健一郎
(東京慈恵会医科大学教授)



小林 隆猛
(東京都民生児童委員連合会副会長)



西野 榮男
(元八王子市社会福祉協議会常務理事)



原田 正樹
(日本福祉大学社会福祉学部教授)

【監事】



宮原 康輔
(練馬福祉園施設長)



松岡 利明
(八王子福祉作業所施設長)



富山 孝行
(西水元あやめ園施設長)



松田 京子
(前東京都社会福祉協議会福祉部長)



谷口 健吉
(税理士)



須永 正
(元社会福祉法人武蔵野会施設長)



國本 康浩
(一般社団法人フードバンク八王子代表理事)



川松 亮
(明星大学教授)



横山 宏
(東京都社会福祉協議会副会長)

高齢者等の避難のあり方について「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取り組み指針」を改めて示し、事前に「受入れ対象者」として市区町村に特定された要配慮者は福祉避難所への「直接避難」を可能とすることを求めるようになりました。

福祉避難所は、阪神淡路大震災をきっかけに制度化され、避難対象者は在宅で暮らす「要配慮者」を想定しています。さくら学園がある御殿場市の地域防災計画では、福祉避難所を主に福祉施設が担うことと規定され、多くの社会福祉法人が、行政と「福祉避難所に関する協定」を締結しています。実際の福祉避難所運営の課題は、「食料・物資」「人手の確保」です。これらの課題の解決を図るため、「福祉避難所」と「行政や社協」との連携が重要であることは言うまでもありません。最も支援を必要としている災害弱者と呼ばれる方々にしっかりと寄り添っていくために、今後は地区の自主防災会と連携し、日頃から地域との横の繋がりを強めることが重要であると考えています。

さくら学園

施設長 小林 俊夫



さくら学園
施設長 小林俊夫



世田谷区立烏山福祉作業所
施設長 野々村武志



白鳥福祉館
施設長 日下幸重



八王子市心身障害者福祉センター
施設長 佐藤 宏



八王子福祉作業所
施設長 松岡利明



リアン文京
総合施設長 山内哲也



八王子生活実習所・リンクス柗田
施設長 岡部智彦



世田谷区立駒沢生活実習所
施設長 村山俊彦



練馬区立大泉町福祉園
施設長 酒井康弘



きね川福祉作業所
施設長 本田直記



練馬区立光が丘障害者地域生活
支援センター「すてっぷ」
施設長 石野哲朗



練馬福祉園
施設長 宮原康輔



東堀切くすのき園
施設長 金澤正義



第2大島恵の園
施設長 安田喜人



武蔵野児童学園
施設長 矢口俊夫



リアン文京
施設長 野村美奈



すぎな愛育園
施設長 山内ゆきみ



世田谷区立世田谷福祉作業所
施設長 伊藤久美子



希望の里
施設長 福田信行



西水元あやめ園
施設長 富山孝行



法人本部職員



練馬区立光が丘福祉園
施設長 横尾泰朗



大島恵の園
施設長 野田久美子



練馬区立北町福祉作業所
施設長 木村文孝



小平福祉園
施設長 多々良康子



世田谷区立九品仏生活実習所
施設長 金子陽介



千代田区立障害者福祉センター「えみふる」
施設長 的場康芳

明けましておめでとぅございませす
本年もよろしくお願ひ致します
社会福祉法人武蔵野会職員一同

令和4年度 武蔵野会セミナー報告

葛飾地区

令和4年度社会福祉法人武蔵野会セミナーをオンラインにて開催しました。今年度は「地域社会における認知症の理解と支援」にスポットをあて「安心して認知症になれる地域社会とは？」当事者のホンネに寄り添う支援のカタチ」をテーマとしました。

第一部の基調講演では若年性認知症当事者であり、デイサービス「DAYS B.L.G! はちおうじ」の当事者スタッフとしても活動されているさとうみきさんと、さとうさんのパートナーである堀田聡子さんに「ひと足先に認知症になった、わたしからのメッセージ」発達障害の息子との歩みから」というテーマでお話しいただきました。実際に若年性認知症の当事者として、発達障害の息子を育てた母親として、デイサービスのスタッフ（介護者）としての3

つの立場から、堀田さんとの対話形式のご講演でした。福祉従事者として、親として、人としてどうあるべきかを考えさせられる深い内容となりました。

第二部のパネルトークでは(株)Professional Works 代表取締役であり東京都認知症対応型サービス研修、登録講師派遣事業の講師としても活動されている島田孝一さんをコーディネーターとし、奥様が認知症当事者で若年性認知症家族会彩星(ほし)の会世話人として活動されている三橋良博さん、社会福祉法人仁生社葛飾区高齢者総合相談センター水元の所長である笹原修司さんの3名で「認知症の方にとって安心して過ごせる社会とは？」をテーマに議論が進みました。議論の中で「困っていることをカミングアウトすることで初めて周りが助けてくれる」といったメッセージがとて印象深かったです。

当日は500数十名の方に視聴いただきました。外部の参加者アンケートからは「当事者であるさとうさんの言葉をとても重く感じました」「認知症に係わる様々な立場の意見、考えが聞けて良かった」などが寄せられました。このセミナーをきっかけに認知症に対して他人事ではなく当事者意識を持つて考える方が増えたので

はないかと感じました。今回のセミナーに登壇された方々の共通の意見にありました「ひとり抱え込まない」が「生きにくさ」を抱えた方々にも共通することだと思えます。今回のセミナーをきっかけに様々な「生きにくさ」を抱えた方々が、仲間を探すきっかけになればと願っています。



ご登壇いただいたパネリストの皆さん

施設あれやこれや

武蔵野児童学園

12月18日に一足早いクリスマス会を実施しました。感染対策で、今年も全員集合はできませんでしたが、リモートだからその演出による出し物、ミニサンタが躍る愛くるしい姿に沢山の笑いが巻き起こりました。頑張ったみんなに素敵なプレゼントが届きますように☆。

白鳥福祉館

年末に葛飾福祉工場を通じて「プロポリスのど飴」を袋に入れる仕事が来ました。数を間違えないように、髪の毛が入らないように、と新しい仕事への緊張感と共に工賃が増える期待感もあり、毎日真剣に取り組んでいます。

大島恵の園

「平六パーク」という公園の落ち葉や草取りの清掃活動を始めました。活動写真が大島の広報誌に載ります。コロナ禍でも少しずつ地域に出て活動することができるようになってきました。

第2大島恵の園

12月後半に入り、大島もずいぶん寒くなりました。先日は最低気温が摂氏4度ほどでしたが、放射冷却があったせいか、マイクロボスの横の水たまりが凍っていました。今のところ、奇跡的に利用者のコロナ感染が0です。

練馬福祉園建替起工式

「鍬入れの儀」

練馬福祉園

練馬福祉園の建替に向けて、令和4年10月26日水曜日、当園芝地にて安全祈願と鍬入れの儀を行いました。当日は雲一つない晴天で、練馬福祉園の未来を象徴するよう、な、気持ちのよい素晴らしい天気でした。

建設と解体を行う株式会社佐藤工業の皆様、設計を担当する双立デザインの皆様、仮設建設を担当する株式会社システムハウスR&Cの皆様、武蔵野会からは高橋理事長、山田本部長、練馬福祉園保護者会会長の杉本様にご参列いただきました。鍬入れの儀は、高橋理事長の威勢のよい掛け声とともに、一同で声と力を合わせ無事に終わることが出来ました。

現在は、芝地が仮囲いされ、2階建ての工事用事務所が完成しています。あんなに高くそびえていた給水塔は、既に解体が終わりました。長い間、楽しい活動をしてきた陶芸棟、昔はよく使っていたプール棟、お祭りやイベントで大活躍だった思い出深い芝地もこの後お別れです。少し寂しいですが、新しい練馬福祉園に大きな希望と

期待が膨らんでいます。



鍬入れの儀(高橋理事長)

施設販売事業「いっぽ」 八王子市 心身障害者福祉センター

センターロビーの一面に販売スペース「いっぽ」が誕生しました。八王子市内福祉施設の作品を常設し、販売を行う事業です。販売場所に限りがあるため施設毎に期間を定め、会議用机1台分のスペースに作品を陳列します。品出し、販売、精算等はセンター職員が担います。

焼き菓子・陶芸作品・布製品等、出店施設の個性が光る商品



出店施設が丹精こめて製作した商品を購入されるお客様

並べ、センター利用者を中心に購入いただいています。来館のたびにお買い上げ下さる方もおり、売り上げは大変好調です。購入者から商品に対する感想を伺い、製作者の皆様へ直接伝える事ができる等、出店施設との交流が生まれたことは、センター職員にとって嬉しい収穫です。

武蔵野会から、希望の里、八王子福祉作業所、八王子生活実習所が出店予定になっており、既に希望の里は野菜と木工製品、八王子福祉作業所は洋菓子を販売しました。購入した皆様からは「美味しかった」「今度はいっぴ販売があるの？」と好評を博しております。施設の皆さんが作品に込めた思いが購入者の皆様に伝わるよう引き続き販売を行っていきます。

八王子福祉作業所

地域の人達に支えられて来た八王子福祉作業所。恩返しのため、この冬ついに子ども食堂を始めました。スタッフは、やはり地域の人達です。当日のお客様は、子どもよりも高齢者の方達にたくさん来ていただきました。

北町福祉作業所

コロナ禍で延び延びになっていた大規模修繕工事がようやく始まり、1月10日から光が丘第七小学校跡施設の1階部分を借用して事業を継続しています。約1年後の12月にはリニューアルされた北町に戻る予定です。

すぎな愛育園

1月21日は年長保育の日です。この日は近くのファミリーレストランから夕食をテイクアウトし、お友達と一緒に食べて19時に降園です。他にも設定遊びや季節外れの花火を計画しています。卒園まであと3ヵ月、すぎなでの楽しい思い出を沢山作ってほしいです。

東堀切くすのき園

開設20周年事業とあわせ今年度の大きな取り組みであるエレベーター入れ替え工事が1月開始。約2ヶ月の工事中は1階事務所も利用者の活動スペースとし、給食の配膳も特別態勢で実施。エアコン付きのきれいで快適なエレベーターにご期待ください。

お知らせコーナー



法人永年勤続者表彰

令和4年度の永年勤続者表彰が11月17日、ZOOMを使ったオンラインで開催されました。理事長から一人一人に表彰状と記念品が贈呈され、受賞者を代表し、リアン文京の鈴木光二職員が謝辞を述べました。表彰を受けられたのは次の方々（敬称略）です。

勤続30年

鈴木 光二（リアン文京）
柿埜 久（さくら学園）

加藤 靖夫（同）

野川 正史（同）

岡部 智彦（八王子生活実習所）

勤続20年

守屋 武治（さくら学園）
鈴木 正光（練馬福祉園）

1月

6日(金) 新年会 (東堀切くすのき園)
7日(土) 20歳を祝う会 (八王子生活実習所)
13日(金) 20歳を祝う会 (東堀切くすのき園)
市長表敬訪問 (八王子地区)
26日(木) 総合防災訓練 (法人)

2月

17日(金) 実践報告会 (八王子地区)
19日(日) 第35回心をつなげる福祉マラソン大会 (東社協)

3月

23日(木) 新任職員研修・辞令交付式

勤続10年

高橋 一生 (同)
小嶋 篤史 (第2大島恵の園)
秋元 真由美 (白鳥福祉館)
保永 剛克 (西水元あやめ園)
曾根 純代 (九品仏生活実習所)
清水 照己 (きね川福祉作業所)
松本 安裕 (八王子生活実習所)
笠原久美子 (大泉町福祉園)
折原由美子 (リアン文京)
田中由美子 (武蔵野児童学園)
小室 静子 (さくら学園)
田代 宏明 (同)
村山 俊介 (同)
飯原 明子 (練馬福祉園)
加藤 修太 (同)
稲木 寿世 (同)
岡野 直樹 (第2大島恵の園)
橋詰 令子 (西水元あやめ園)
角田 悦子 (同)
野本久美子 (同)
石場 義広 (東堀切くすのき園)
岩城 一豪 (同)
関口 光治 (同)
石井 竜治 (きね川福祉作業所)
佐藤 詩織 (北町福祉作業所)
橋本まどか (同)
韓 三希子 (八王子福祉作業所)
高橋 美江 (八王子生活実習所)
下瀬 晶子 (大泉町福祉園)
韓 国強 (小平福祉園)
平島 陽子 (同)
小林 亮 (千代田区立障害福祉センター)
辻 琴美 (同)
中野 博子 (同)
伏見 直之 (同)
呼野 美江子 (光が丘福祉園)
櫻田 睦 (同)

支援実践集表彰

法人本部

武蔵野会では、毎年各施設の取り組みを一事例ずつ報告してもら

い「支援実践集」を発行しています。今年度も各施設から24編の提出を受け、理事長、松田監事、本部長が審査を行い、表彰式を昨年11月10日に実施しました。ここ数年は、感染予防のため、オンラインツールのZOOMを使い、全施設をインターネットでつないで開催しました。



左から最優秀賞の佐藤職員と加藤職員

最優秀賞は、さくら学園が受賞、高齢重度化が進む入所施設で専門家の意見を取り入れられるプロジェクトチームを作り実践した内容ですが、利用者も一緒に研修に参加して口腔ケアを自覚するなど、個々の状況に合わせたケアの内容が評価されました。最優秀賞とは僅差の中、力作だった4施設がそれぞれ優秀賞を受賞しました。毎年発行している「支援実践集」はバックナンバーを含めて武蔵野会各施設でご覧いただけます。今回の受賞作は次の通りです。

【最優秀賞】(1編)

「歯科医との協働による口腔ケアの改善」健康寿命の延伸に向けて」さくら学園

【優秀賞】(4編)

「安心して生活していける取り組み」練馬区立光が丘福祉園
「地域共生社会の実現に向けて」ピアサポーター活躍の支援

「障害のある人も障害のない人も共に創り続けた10年の歩み」練馬区立光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷ

シフォンケーキ

烏山福祉作業所

☎03-3326-8001

ふわふわしゅわっと口どけが軽い、米粉のシフォンケーキです。抹茶、ほうじ茶、プレーン味があり季節によつてさまざまなフレーバーが登場します。お値段は一個200円です。米粉などお米を使った商品づくりは6年目となりました。今年も新しい商品づくりにチャレンジしていきます。どうぞよろしくお願ひします。



武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する事業所の利用者のためにより良い環境や施設の充実、円滑な運営などを物心両面から支える組織として武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により会の拡大を図り、法人の運営基盤の確立を応援していますのでご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3

電話・FAX 042-626-9772